令和３年度　釜石市地方創生アドバイザー会議　結果

【開催日時・会場】

令和３年 11 月７日（日）９時 30 分～12 時 30 分　陸中海岸グランドホテル

【出席者】

枝見太朗、藤沢 烈、堀久美子（代理 木村卓哉）、吉野英岐、小安美和、横田浩一
佐藤摩利子

【開催結果】

・地方創生の取組み全般に対して幅広く意見をいただいた。

【主な意見】

・シチズンプライドの醸成。住民がこの街を愛するためにどうすればいいか取組んでほしい。

・復興期に多くの企業や個人が来て、オープンシティ戦略の中でしっかり取り込んできた。復興の切り口で外から人が来てくれる時期ではなくなった。これからは外に発信し、担当者も外に出て人を取り込んでいくようなオープンシティを検討いただきたい。

・コロナでテレワークやワーケーションが進み、東京から地方に出てきている。バーチャルな関係人口をどんどん作り上げることがいいのでは。

・人口が減少している。産み育てやすいまちづくりをすると子どもたちが帰ってくる。産み育てやすい環境づくりを。

・５年間で女性の採用に関して、経営者側に変化がある。これから先、女性を人で不足要員としての採用ではなく、性別に関わらず能力意欲のある方が活かされる職場が増える地域になってほしい。

・女性の活躍には性別役割分担意識の変化と、家庭における男性の活躍を期待したい。

・将来世代のために SDGs を進めている。若者の意見を聞く、大学生と一緒にプロ

グラムを開発する取組みを進めてほしい。若者の意見を取り入れることが大切。

・市民活動には芸能面が必要と考える。三陸は芸能が盛んで、市民が主役で行っている。市も色んな形で支援していただきたい。

・未来世代の子ども達、若者達の可能性と主体性を最大限に拓く機会を創造できるように協働させていただきたい。